

2012/04/07 イースター

青柳憲子です。みふみ幼稚園の卒園生です。

神様の存在を知るようになったのは物心のつく5、6歳の頃、怖い夢を頻繁にみるようになったからでした。家が火事になってしまう夢。お母さんが死んでしまう夢。お母さんが突然居なくなってしまう夢…。しばらく苦しんだ後に、幼稚園でお祈りする習慣があったので、「お祈りしよう！」とひらめきました。

「神様、怖い夢をみないようになしてください。イエス様の御名を通してお祈りします。アーメン。」すぐに祈りはきかれ、毎晩祈るようになり、その後は怖い夢はみなくなりました。たまに疲れていてそのまま寝てしまうと、また怖い夢をみました。

小学5年生のとき、他の教会と合同のキャンプで、イエス様を救い主として受け入れたい人は手を挙げて、という招きがあり、手を挙げました。大人のクリスチャンが私を前へ連れて行き、肩を抱いて祈りました。他にも大勢の子供が出てきて、みんな神様の愛を知って嬉しくて泣いていました。反対に、私はだんだん怖くなりました。家族の中で自分だけクリスチャンになると大好きな家族から引き離されてしまう。まだ幼かった私は寂しくなって、涙がこぼれました。その後、みふみの先生たちは「すぐバプテスマを受けなさい。」と勧めなかったのがこれ幸いと、「このまま、神様を信じているだけでいい。教会に通ってるだけでいい。本物のクリスチャンにならなくていい。」と決め込んでいました。

30代後半の頃、日曜日が仕事で礼拝出席できなくなった私に「水曜日でもいいよ。」と外山元牧師が入門クラスを開いて下さいました。毎週とか決めず、行けるときに「これから行ってもいいですか？」と突然電話して行くという、大変失礼な私のきまぐれでしたが、いつも暖かく迎えて下さいました。

そのクラスのある時に「愛という言葉は何種類かの意味がある。」と知りました。その中で神の愛は最大級の愛、親が子供を愛する以上の愛、人間同士の中には存在しない愛、というのです。私も子供を二人授かり、いとおしく一緒に居る時間を大切に、愛しています。大変おこがましい例えですが、もし私が神様だったとしたら、子どもたちの命を世界人類の救済のために差し出すことはできません。しかし、神様は私を最大級に愛して下さい、ご自分の子であるイエス様を私の罪の身代わりとして十字架につけられました。ヨハネ3:16に「神は実にそのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者がひとりとして滅びることなく永遠の命をもつためである。」という、幼稚園の頃から知っている聖句の意味をこの時初めて理解し、受け入れました。

そして2010年秋、バプテスマを受けたいと決心させるある出来事がありました。

職場の飲み会の席でのこと。同僚たちが「独立しよう！」と冗談で言いだして、ふざけて盛り上がっていました。ところがその後、本当に計画するようになって、私が代表に担ぎ出されてしま

い、不安と恐怖に襲われました。久しぶりにまた、真剣に祈る機会に恵まれました。その悩みが解決されたのと、バプテスマの決心がついたのは同じ瞬間でした。

実は、2011年の1月2日の礼拝で、外山元牧師の説教の最中に、「そうだ！バプテスマ受けよう！！」という思いが突然頭をよぎったのです。

え？まさか？？何？何でそんなこと思っちゃったの？と説教も聞かず自問自答していたら「そうか、神様にすがってればこんな自分でも経営者になれるかもしれない。今までもたくさん祈りはきかれていたし、きっと助けていただける。会社経営しながら神様を第一にしていれば、その会社も祝福されるかも。」という考えに発展しました。

「神の国とその義を、まず第一に求めなさい。そうすればそれに加えて、これらのものはすべてが与えられます。」マタイ6:33。子供のころに覚えた暗唱聖句がまたでてきました。どんなときも神様を最優先にしていれば、必要は満たされる。だから自分を神様に直接つないでおきたい、そのためにバプテスマを受けたいと決心しました。

悩みは解決され、積極的に起業の準備を進めていたところ、東日本大震災の影響で職場の店舗が閉鎖になり、みんなとは別れ別れになり、そのうち独立の話も無くなりました。

最近ではバイト生活のため経済的に厳しく不安定ですが、日曜日の礼拝には出席できるようになりました。神を第一としているためか、今のところ私も私の子供たちも、母や妹や周囲の人たちを通して、毎日の生活が神に支えられています。出エジプト記には、モーセに率いられ神を信じ荒野をさまよったイスラエル人たちが、不思議な方法で毎日マナという食べ物を与えられた話が載っています。それがまさに今の私と重なります。神を第一とするその環境の中で自分にできる精一杯のことをやっていたら、必要なものは全て与えられる。それを確信すると、自分の心に平安が満たされてきました。

また、こんなにへたれで情けない私の生き方を通し、神様はご自身の最大級の愛を示しておられる。

私はそのための証し人なのでは、とも気が付きました。一方的な神の恵みをただ感謝して受けとるだけでいい、と徳田牧師のバプテスマクラスで学びましたので、これからも遠慮せず
図々しく愛を

受け取り続け、証ししようと思います。最後に、いつも私に関わり助けて下さっている全ての人たちと、その人たちに出会わせて働きかけて下さった神様と、私の罪の身代わりとして死んで下さったイエスキリストに感謝します。